



シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」③

「北九州市の  
若年性認知症について」

ニリエテラスケアちえずむ  
代表取締役

ありま よしの すけ  
有馬 由之助さん



推計、全国約35,700人、本市約260人

「認知症」は高齢者だけの病気でしょうか？

実は65歳未満で発症する若年性認知症の方がいらっやいます。具体的なデータをご紹介しますと18歳から64歳人口10万人当たり50.9人とされ、全国では約35,700人と推計されています。

同様に北九州市では約260人と推計されます。

平均気づき年齢は54.4歳で男性の方がやや多いというデータがあります。

最初の症状として一番多いのが「物忘れ」。他には「職場や家事でのミスが多くなった」、「何事にもやる気がなくなった」という症状が見られています。

原因疾患は「アルツハイマー型認知症」が一番多く52.6%、「血管性認知症」17.0%、「前頭側頭型認知症」9.4%と続きます。

「できることは自分でしたい」

令和2年度北九州市若年性認知症実態調査では認知症の診断が難しく、「気付いてから診断を受けるまでに時間がかかった」、診断を受けた後も情報が届きにくく「制度やサービスに繋がらない」、「ニーズや状況に合ったサービス提供がされない」、退職を余儀なくさ

れ「経済的に不安定となった」といった声が寄せられています。

同時に若年性認知症であっても「できることは自分でしたい」、周囲のサポートがあれば「まだ働きたい」や「人や社会の役に立ちたい」という思いを持っていらっやることが分りました。

「北九州市オレンジプラン」

～正しい理解と支え合う仕組み作り～

「北九州市オレンジプラン」では認知症に対する基本的な施策で「若年性認知症施策の強化」が謳われています。

結果として北九州市認知症支援・介護予防センターには若年性認知症支援コーディネーターが設置され相談の入り口、連携拠点として機能しています。

認知症は年齢に関係なく発症する可能性のある病気です。

もし、発症しても周囲から若いという理由で気づかれにくい、誰にも相談も出来ない状況もあります。

社会全体で若年性認知症を正しく理解し安心して暮らせるように支えあう仕組み作りが今後の課題だと考えています。

子育て支援ボランティア  
養成講座レポート

この講座は子ども食堂をテーマに、子どもを孤立させず、「育つ力」を助けるようなボランティア活動について学ぶことを目的に開催しました。

受講生は活動意欲の高い方が多く、市内で食堂を運営されている講師の話に聞き入っていました。

内容は、日々の話や食堂立ち上げのイロハ、年間収支、資金確保の助成、企業との連携による運営支援等の具体的な話や、地域全体で子どもを見守る場としての多様な役割と多世代交流拠点としての可能性等多岐に渡りました。

質疑応答では、食堂開設にあたり、協力要請する団体との役割分担、とりわけ市民センターの会場使用や食材保管フロー等実施上重要な内容が相次ぎました。

受講後に、活動を希望された方々には子ども食堂ネットワーク北九州と連携して活動先をご紹介する予定です。北九州市で子ども食堂が増え、ボランティアさんも増えるよう今後も取り組んでいきます。



聴覚に障害がある人への  
ボランティア入門講座レポート

この講座は、共生社会を目指して、障害のある方への支援について学ぶとともに、受講生をボランティア活動につなぐことを目的に開催しました。

受講生は年代も幅広く、母娘で受講する方、手話を勉強中の方など様々な方々でした。講座では、これからボランティアを始める方への入門編として、聴覚障害のある人の体験談を聞き、簡単な手話を学んだ後、入会できるボランティアグループの紹介と手話奉仕員養成講座の案内等を行いました。

講師は日々の生活や困り事を手話で話し、同時に手話通訳者が音声で通訳を行いました。「耳が聞こえる人と聞こえない人との対話の困難さを災害時に実感したから手話を広めたい。健聴者と共



に生きる事を楽しみたい。」とお話されたのが印象的でした。来年の養成講座からさらにボランティア活動の輪が広がればと思います。

受講生  
募集

自分らしい人生のこれから終活プラン

～終活 × 循環型まちづくり～

少子高齢社会の中、「人生100年時代」とも言われる近年、高齢で身寄りがなく将来を託す人がいない方や、身内に迷惑をかけたくない方を中心に「終活」が注目されています。

本セミナーでは、「終活」に関連する、葬儀や納骨、遺言・相続等の基礎知識を学ぶとともに、自分らしい「エンディングノート」について考えます。

あわせて、あなたが生きてきたまちの将来を想い、ご自宅(持ち家)の活用等による、地域貢献や空き家防止による福祉の循環型社会の可能性についても考えます。

人生の終わりと、これからについて、また人生の終わりに取り組みたい社会貢献などについて一緒に考えていきませんか。



と き / 12月3日(土)、10日(土)、17日(土)全3回 10:00～12:00(9:30～受付)

ところ / ウェルとばた12階H・I研修室(戸畑区汐井町1番6号)

対 象 / テーマに関心のある方 受講料 / 700円

定 員 / 30名 ※申込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。

申込方法 / 電話またはGoogleフォームでお申込ください。

申込締切 /  
11月17日(木)必着

QRコード  
▶受講申込



研修レポート ボランティア・コーディネート研修

～人生100年時代のボランティアのあり方～

講師:  
ニリエテラスケアちえずむ  
代表取締役 有馬 由之助

今回は「人生100年時代とボランティア～超高齢化社会に向けたボランティアのあり方について考える～」をテーマにニリエテラスケアちえずむの有馬様に講義いただきました。

社会福祉施設や、市民センターなど、ボランティアを受け入れている方を対象に、ボランティアと受け入れ側のそれぞれにとってプラスとなるコーディネーションとは何かを、データや具体例を基にして学びました。

参加者からは「ボランティアをする側、受け入れ側双方の考えを再認識できた」、「ボランティア一つひとつの活動に意義があり、奥深いものだ」と改めて学んだとの声をいただき、今後のモチベーションアップにつながる講座となりました。

これからもボランティアとのコミュニケーションスキルアップをはじめ、受講者の皆さんに役立つ情報や技術を提供できるよう企画してまいります。

